

おにモンカードづくりを通して読書の楽しさを味わわせながら読む力を育てる。

第2学年2組 国語科学習指導案

指導者 吉野 高史

1. 単元名 「おにモンカード」をつくろう

2. 学習材 「ないた赤おに」(教育出版 ひろがる言葉 2年下)
『ソメコとオニ』(齋藤隆介著 岩崎書店発行 1987年初版) 【共通学習材】
『おにのぼうし』(あまんきみこ著 ポプラ社 1969年初版)
『オニのサラリーマン』(富安陽子著 福音館書店 2015年初版)
他 おにの出てくる本

3. 単元について

(1) 本単元でつきたい力

本単元では、主に小学校学習指導要領・国語〔第1学年及び第2学年〕の「C 読むこと」における以下の能力を身に付けさせることをねらいとしている。

C 読むこと

- (1) ア 時間的な順序や事柄などを考えながら、内容の大体を捉えること。
- エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。
- オ 文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもつこと。
- カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。

言語活動例

- イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。

本単元では学習材「ないた赤おに」の学習をきっかけにして、様々な物語に登場する鬼の特徴を記した「おにモンカード」を作成する学習を行う。物語によって鬼にも様々な性格や特徴があることを知り、多種多様な鬼をおにモンカードに収集しながら読書に親しませていきたい。

(2) 単元の目標

【知識・技能】・・・㊦

○読書に親しみ、いろいろな鬼が登場する物語があることを知ることができる。(1 (3) エ)

【思考・判断・表現】・・・㊧

○内容の大体を捉え、自分の体験と結びつけて感想をもち、おにモンカードに鬼の特徴を書き表すことができる。

(2C (1) ア)

【主体的に学習に取り組む態度】・・・㊨

○学習の見通しをもって幅広く読書に取り組んでいる。

(3) 本単元で行う言語活動

本単元では、鬼の出てくる物語を並行読書し、それぞれのおにの特徴をまとめた「おにモンカード」を作成する言語活動を行っていく。カードを収集する過程を通して鬼の出てくる本を読み、読書の楽しさを味わわせる。これは、小学校学習指導要領「C 読むこと」における、言語活動例「イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。」を踏まえている。

「おにのとくちょう」の項目には「やさしい」「こわい」「親切」「強い」など自分が読んで感じたおにの特徴を3つ記入できるようにして、そのおにの特徴にふさわしい言葉を自分で考えるようにする。自分でおにの特徴をうまく表現できない子どものために、様子を表す言葉を教室に掲示しておき、そこから自分が適当であると思った言葉を選んで記入してもよいこととする。単元の導入時に提示する教師モデルについても複数の言葉を散りばめることで、子どもたちの言葉選びのヒ

ントになるようにしたい。また、それぞれの特徴の強さを星の数で表し、その特徴がとても強いと感じたら星3つというように星の数を自分で考えて記入する。従って、同じ本を読んでも子どもたちの感じ方の違いから特徴や星の数が異なることが予想される。お互いのカードを見合った際に、自分とは異なる感じ方をした友だちの存在を知ることによって、なぜそう思ったのか疑問が生まれ、話し合いに繋がっていくことが期待できる。「こんなお話です」には、本のあらすじを1文または2文で書かせるようにする。それを書かせることで、内容の大体を捉える力を育むことができると考える。また、カードを見た他の子どもがその本に興味をもち、読書活動が促進されることも期待している。おにモンカードの用紙は3種類（罫線なし・下線あり・マス目あり）用意しておき、自分に合ったカードを選ばせて、かかせていく。本を読むことに対して苦手意識がある子どもの抵抗感を減らすために、教師が着語読みや読み聞かせをして、たくさんの物語に出合うことで楽しさにふれ、自分から興味をもって取り組めるように支援していきたい。



(4) 学習材について

「ないた赤おに」

本学習材「ないた赤おに」は、童話作家の濱田廣介の『日本児童文学大系 第一三巻 浜田廣介集』（1977年 ほるぷ出版）が出典である。

濱田廣介は1983年山形県生まれの童話作家である。濱田廣介は掲載する雑誌の読者に合わせて何度も書き直しを行うことが多く、「泣いた赤おに」の題名も「おにのさうだん」「鬼の涙」「泣いた赤おに」と変更されている。内容についても改稿が繰り返されており、「泣いた赤おに」は以前のものよりも簡略化されている。

「ないた赤おに」には、2人の鬼が登場する。1人は人間のためにはたらし、人間と仲良くなりたいた赤おに。もう1人は赤おにの友だちの青おにである。鬼は物語の中で恐ろしい存在とされ、人間は関わることを避けていた。赤おには人間と仲良くなるために、家の前に優しい鬼だとわかるように立て札を立て、おいしいお茶やお菓子を用意して人間が訪れるのを待っていたが、人間は畏れだと考え、家を訪れようとしなかった。赤おには上手くいかないことに落ち込み、せっかくなかった立て札を破壊し嘆く。そこへ青おにがやって来る。青おには、自分が村を襲い、そこを赤おにが守れば人間の信頼を得ることができると考え、赤おにに提案する。赤おには初め乗り気ではなかったが、青おにに言われ実行する。作戦は成功し、赤おにの家には毎日人間が訪れるようになり、赤おには人間と仲良くなることができた。しかし、それから青おにの姿を全く見なくなってきた赤おには、心配に思い青おにの家を訪れる。家の前には張り紙があり、青おには赤おにが人間に疑われないように旅に出たことがわかり、赤おには青おにの優しさと、自分が人間と仲良くなりたいが為に友だちを失った悲しさに涙を流すという話である。

この物語の特徴は出てくる鬼がどちらも優しく、お互いのことを思いやることのできる鬼だということである。人間のためにはたらし、できることなら人間と仲良くなりたいたと思っている優しい赤おにと、友だちのために身を挺して行動する青おにに、自分の体験を結びつけながら読み進められる学習材となっている。また、赤おには場面ごとに感情が移り変わり、立て札を壊す場面では怒

りを表し、青おにがけがをした時は心配し、人間が家に訪れる場面では優しく人間をもてなし、青おにが旅に出たと知った時は涙を流して悲しんでいる。物語を読み進める中でいろいろな感情の赤おにを見つけることができる。たくさん感情を見つけることで、子どもたちがつくるおにモンカードの内容も様々になり、お互いのカードを見合った時にちがった特徴を書いていることに気づき、お互いの考えを聞いたり話したりできると考える。

最後の場面では、ハッピーエンドで終わるかと思っていた物語が一転する。着語読みの際、子どもたちは最後はみんな仲良く暮らせるお話だと予想するだろう。しかし予想を裏切り青おにが旅に出てしまうことで、その後の話が気になったり、もやもやした感情を抱いたりすることが予想される。本を読むことで様々な感情を抱くことができると感じられれば、日頃本を手にとることが少ない子どもも本の魅力に気づき、他の物語はどのような話なのか興味を抱き、たくさん物語を読みたいという意欲をもたせることができると考える。また、カードを作ったり、収集したりするのは、この年代の子どもたちの興味や関心を引き、意欲的に読書を行うことができると考える。「ないた赤おに」の学習をきっかけに、読書の楽しさを味わわせて読む力を育てていきたい。

(5) 子どもの実態 (男子13名 女子12名 計25名)

本学級では、朝自習の時間を利用して読み聞かせをし、様々な物語と出合える機会をつくっている。また、生活科の野菜を育てる学習や、生きものについて調べる学習などでわからないことがあると図書室へ行き、本にふれる機会を多くしている。本を読むことが好きな子どもが多く、外に遊びに行けない日は休み時間に多くの子どもが図書室へ行き読書を楽しんでいる。また、本校には絵本の部屋という低学年向けの図書をそろえた教室もあり、読書の時間にそこから本を持ってきて読んだり、10分休みに次にどの本を読もうか本をさがしたりする子どもも多くいる。

家庭学習で毎日音読の宿題を出しており、これまでに学習した教科書の文章を何度も繰り返し読んでいる。繰り返し読むことで、短時間で正確にはっきりと読むことができる子どもが多くなってきた。

子どもたちはこれまで順序を捉え、場面ごとに登場人物が言ったことや思ったことを想像しながら学習を進めてきた。「えいっ」では、くまのとうさんの様子を表す言葉に着目して、くまのとうさんが信号をかえたり、星を出したりした仕組みを読み取りながら学習してきた。「わにのおじいさんのたからもの」では、おにの子や、わにのおじいさんの性格について「優しい」「正直」「我慢強い」など、本文を手がかりに考えてきた。また、お話の終わり方について「すてきな夕やけも宝物だけど、足下の宝物も気になる」「納得できない」「なんで土の中に宝物があると教えなかったのか」など、物語の終わり方の評価について話し合うことができた。

これまでの学習を通して子どもたちは物語の順序を捉え、登場人物の発言や行動から人物像について想像したり、自分の体験と結びつけたりしながら文章を読むことができるようになってきている。

そこで本単元ではたくさん物語と出会い、登場人物の行動や場面の様子を読み取り、おにモンカードを作成していくことで物語の大体を捉えられるようにしていきたい。また、中学年や高学年では叙述をもとに登場人物の気持ちを捉えられるようになっていたり、文章全体の構成を把握し、登場人物の相互関係や心情の変化などを描写をもとに捉えられるようにさせていきたい。文章を1文字ずつ読み、内容理解が難しい子が1名いるので、読み聞かせをしながら鬼の特徴を見つけさせていきたい。

(6) 指導観

〔見いだす〕

□本時(本単元)の目標(めあて・ねらい)を児童に明示する。

①学習の見通しをもたせ、主体的に学習に取り組ませるために、単元のゴールを示す。

本単元の導入では、これまで読んできた鬼のお話を振り返らせ、どんなおにがいたか思い出させる。いろいろなおにがいたことを確認した後、「ないた赤おに」の赤おにで作成した教師モデルの紹介をする。そして子どもたちにおにモンカードをつくりたいという意欲をもたせ、これからの学習計画を共に考えていく。学習計画に関する発言は箇条書きで板書しておき、教師がまとめて模造紙に書いて、教室に掲示しておく。紹介するおにモンカードの「おにのとくちょう」や「こんなお話です」の項目は一部隠しておき、子どもたちに予想させたり、自分で考えさせたりしながらないた赤おにへの関心を高めていく。

〔自分で取り組む〕

□児童が自分の考えを形成したり、思いや考えをもとに想像したりする時間を確保する。

②赤おにや青おにの特徴について読み取り、どんなおにか考えながらおにモンカードを作成する。

本文を読みながら、赤おにや青おにがどんなおになのか、おにの特徴を考えさせていくために、おにの特徴の分かる部分に付箋を付けながら読み進めていくようにする。「おにのとくちょう」については自分で物語に登場する鬼がどんな鬼なのか考えて3つ書いていく。特徴を表す言葉が思いつかない子どものために、様子を表す言葉の一覧表を教室に掲示しておき、そこから選んでもよいとする。おにモンカードの用紙は3種類（罫線なし・下線あり・マス目あり）用意しておき、自分に合ったカードを選ばせて、かかせていく。

〔自ら取り組む〕

□児童が自分の考えを形成したり、思いや考えをもとに想像したりする時間を確保する。

③鬼の出てくる本を用意し、たくさんの本と出合える環境を作る。

たくさんのおにのお話と出会い、読書に親しみながらおにモンカードを作成することができるようにするために、図書館に依頼し、おにの出てくる本を多数用意する。たくさん本を用意することで、本を選ぶのを楽しんだり、お気に入りの本を見つけたりすることができるようにしていく。また、読書の時間を使っての読み聞かせも並行して行い、たくさん本に出合えるように支援していく。

〔広げ深める〕

□児童が多様な考えを理解できるように、お互いに学び合う場を設定する。

④おにモンカードを読み合ったり、お気に入りのカードの発表を聞いたりして、友だちとの感じ方の違いに気づくことができるようにする。

同じ本を読んでおにモンカードを作成しても、「おにのとくちょう」や、「こんなお話です!」の内容は、一人一人異なってくる。お互いのおにモンカードを見合ったり、発表を聞いたりすることで、同じ物語でも人によって感じ方が違うことを知り、自分だけでは読み取ることができなかった様々な視点を友だちのおにモンカード読むことで感じ取らせ、協働的な学び合いをさせていきたい。

〔まとめあげる〕

□子どもが板書やノート、作品等を通して思考の過程を振り返り、学んだことをまとめる場面を設定する。

⑤単元の最後に3観点で、自分の学びを振り返らせる。

単元の最後に、①たくさん鬼の出てくる話を読んでどうだったか。②おにモンカードをつくったり、友だちとカードを見合ったりしてどうだったか。③この学習でできるようになったことは何か。の3観点で振り返りをする。振り返りを行うことで、自分自身が成長したことを客観的に捉え、達成感や成就感を味わわせるとともに、メタ認知能力の向上も図っていきたい。

4. 全体指導計画（10時間扱い）

時	主な学習活動	○教師の留意点 ☆評価（方法）	
1 本 時	「ないた赤おに」と出会い、学習計画を考え、単元の見通しをもつことができる。 ・おにモンカードに出会い、おにモンカードを作成するための学習計画を考える。 ・着語読みをしながら『ないた赤おに』の語句を確かめたり、話の内容を確認したりする。	○ないた赤おにへの関心を高められるように赤おにのおにモンカードの一部を隠しておき、赤おにがどんなおになのか想像できるようにする。 ○おにモンカードをつくるにはどのような学習が必要か考えられるように、教師モデルをたくさん作成しておき、本を多読することや本の内容を理解しないとかけないことに気付かせる。	

		☆作品と出会い，これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 (㊤発言・ノート)	
2	赤おにの特徴について話し合い，おにモンカードを作成する。 ・赤おにはどんなおにか考える。 ・赤おにの感情の変化について読み取る。 ・子どもたちが考えたおにの特徴でそれぞれおにモンカードを作成する。	○3種類のカードを用意しておき，子どもたちの使いたいと思うカードの形式でおにモンカードを作成させる。 (罫線なし・下線のみ・マス目あり) ☆赤おにの特徴について考えながらカードを作成している。 (㊤発言・ワークシート)	おにの出てくるお話の並行読書↓
3	青おにの特徴を話し合い，おにモンカードを作成する。 ・青おにはどんなおにか考える。 ・青おにはどうして村を襲ったり，長い旅に出たりしたのか。 ・子どもたちが考えたおにの特徴でそれぞれおにモンカードを作成する。	○3種類のカードを用意しておき，子どもたちの使いたいと思うカードの形式でおにモンカードを作成させる。 (罫線なし・下線のみ・マス目あり) ☆青おにの特徴について考えながらカードを作成している。 (㊤発言・ワークシート)	
4	物語全体を読み，物語の終わり方について話し合う。また，赤おにと青おにの特徴について比較して話し合う。 ・赤おにと青おにどっちの方が優しいと思うか。 ・物語の終わり方についてどう思うか。	○なぜそのように思ったのか本文から理由を考えさせるようにする。 ☆人物の行動や言動から気持ちを想像し感想をもとうとしている。 (㊤発言・ノート)	
5 6 7	おにモンカードを作成する。 ・おにの出てくる話を読んで，おにモンカードを作成する。	○朝読書の時間を使って読み聞かせを行っているが，文字を読んで内容を理解するのが難しい子どもには個別に読み聞かせや着語読みをして，内容を確認しながら学習を進めていく。 ☆おにモンカードを進んでつくろうとしているか。 (㊤態度・ワークシート)	
8	友だちのカードを読み合う。 ・友だちのカードを読み合う。 ・同じ本を読んだ子どもがいた場合，おにモンカードを見合わせ，違いを確認し，なぜそう思ったのか話し合う。	○同じ本を読んでも特徴の感じ方が異なることに気付かせる。 ☆友だちのカードを読んで感じたことわかったことを共有しようとしているか。 (㊤発言・ノート)	
9	自分のおすすめのカードを紹介する。 ・これまで作成したおにモンカードの中から，自分が気に入っているカードを選んで紹介をする。	○みんなの前で発言するのが難しい子どもに対し，隣について一緒に読みながら発表できるように支援する。 ☆自分がおすすめするおにモンカードを紹介しようとしている。 (㊤発言・ノート)	
10	学習のまとめ ・以下の3つの観点で振り返りを行う。 ①おにモンカードをつくるためにたくさんの鬼の出てくる話を読んでどうだったか。 ②おにモンカードをつくったり，友だちとカードを見合ったりしてどうだったか。	○3観点で振り返りを行うことで，自分自身が成長したことを客観的に捉え，達成感や成就感を味わわせるとともに，自分自身を客観的に捉える能力の向上も図っていく。 ☆単元全体の学習について振り返ろうとしている。(㊤ノート・発言)	

	か。 ③この学習でできるようになったことは何か。	
--	-----------------------------	--

5. 本時の指導 (1 / 10)

(1) 目標

「ないた赤おに」と出会い，学習計画を考え，単元の見通しをもつことができる。

【主体的に取り組む態度】

時配	学習活動と内容 ◎教師の発問・子どもの反応	○教師の留意点 ☆評価 (方法)
3	1. これまでの学習や読み聞かせでふれてきた物語を振り返り，鬼のイメージについて考える。 ◎鬼ってどんなイメージがある？ ・桃太郎の鬼はこわいよ。 ・やさしい鬼もいたよ。 ・いじわるな鬼が多かったと思う。	○鬼のイメージについて質問することで，様々なおにがいることを確認する。 ○イメージができない場合は，『桃太郎』や『わにのおじいさんのたからもの』の内容を思い出させイメージさせる。
5	2. おにモンカードを紹介する。 ・作ってみたい。 ・たくさん集めたい。 ・難しそうな気がするな。	○おにモンカードを提示する際はカードを蛇腹折りにしておき，カードがたくさんあることを演出する。 ○おにモンカードを大型モニターに映し，どのようなカードがあるか確認する。
1 2	3. 本時の学習課題を確認する。 おにモンカードを作って紹介するにはどのような学しゅうをすればよいだろう。 ◎どんな学習をしていけば良いかな。 ・たくさん本を読まないといけないね。 ・カードをたくさんつくらないといけない。 ・みんなの前でカードを紹介する。	○学習内容についての意見は板書しておき，後日教師が模造紙にまとめるようにする。 ○拡大した「赤おに」のおにモンカードを提示する。項目を数カ所隠しておき，何が書かれているか予想しながらカードの項目を確認する。 ○赤おにの特徴を予想することで，どんなおになのか興味をもたせ「ないた赤おに」を読んでみたいと思わせる。
2 0	4. 着語読みをする	○着語読みによって説明を加えたり，内容を確認しながら抑揚をつけたりして読むようにする。 ○学習に興味をもって取り組めるように，先を予想させたり，自分の体験を振り返ったりしながら読めるように質問をしながら読んでいく。
5	5. 国語日記を書く。	○今日学習してわかったこと，これから学習したいことについて日記を書かせる。 ☆「ないた赤おに」と出会い，学習計画を考え，単元の見通しをもつことができたか。(㊦発言・ノート)